

【参考資料】 令和元年度地域歯科保健活動実施状況調査報告（ブロック別実施状況）

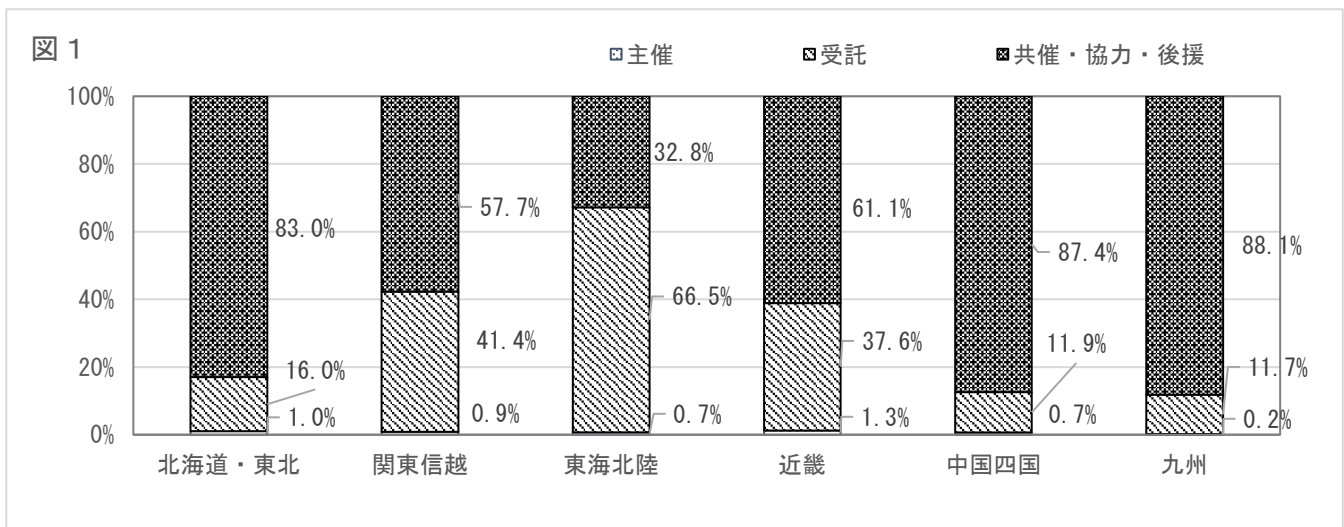
（地域歯科保健委員会）

令和元年度地域歯科保健活動実施状況調査報告の参考として、初めて6ブロック別に活動実施状況を集計したので報告する。各都道府県会の規模や会員数により、ブロック別の集計においても実施事業回数および従事歯科衛生士数が大きく異なるため、実施回数の割合のみ報告する。

今回の報告が、ブロック間での情報交換や今後の事業実施の参考につながり、より幅広い取り組みを行うための資料としてご活用いただきたい。

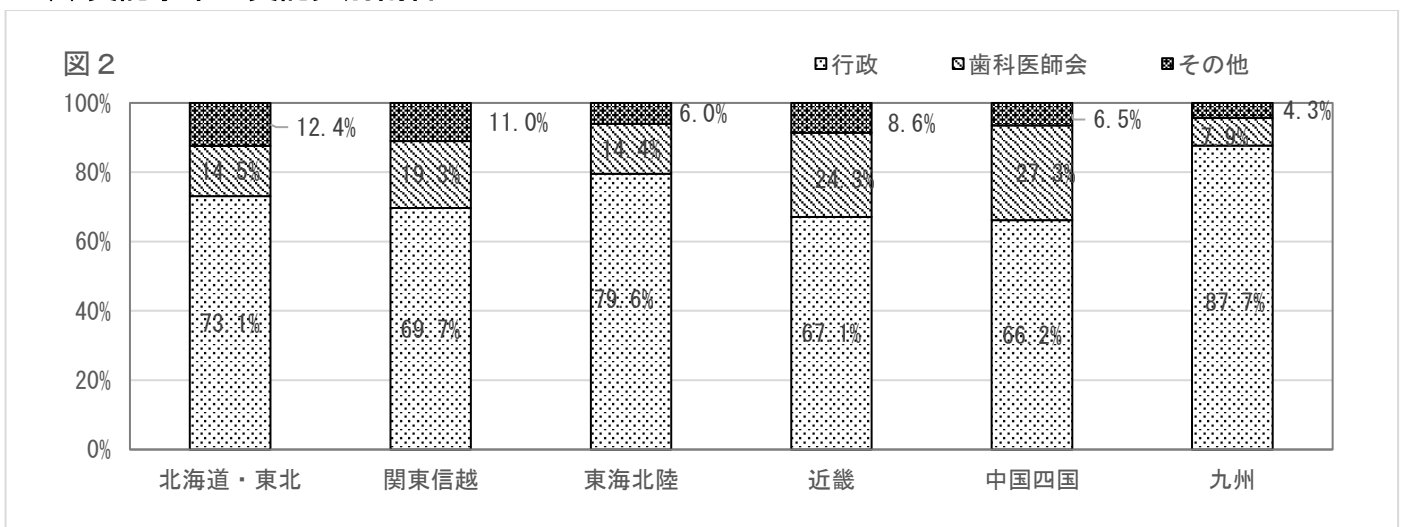
1 事業実施回数について

(1) 実施主体別割合



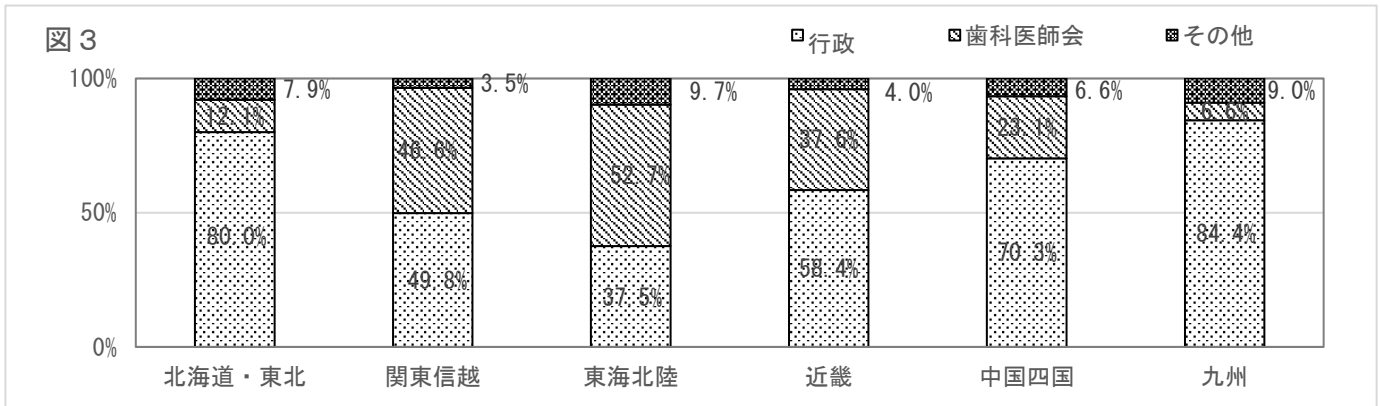
- ・東海北陸が最も受託事業の実施回数割合が多く、事業全体の3分の2を占める。
- ・共催・協力・後援事業の実施回数割合が最も多いのは九州、次に中国四国であった。

(2) 受託事業の受託先別割合



- ・行政からの受託事業が最も多いのは、九州の87.7%、次いで東海北陸の79.8%であった。
- ・その他からの受託事業が最も多いのは北海道・東北12.4%、次いで関東信越の11.0%であった。

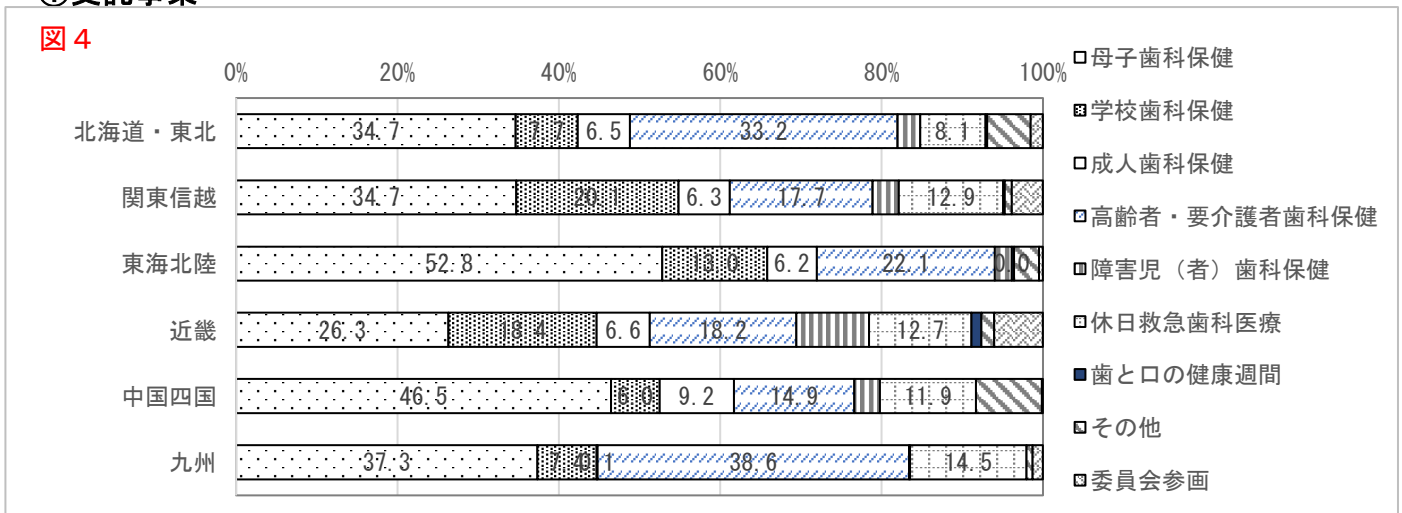
(3) 共催・協力・後援事業の依頼先別割合



- ・行政からの依頼が最も多いのは、九州の84.4%、次いで北海道・東北の80.0%であった。
- ・歯科医師会からの依頼が行政より多いのは東海北陸の52.7%、次いで関東信越の46.6%であり、東海北陸は行政よりも約15ポイント歯科医師会からの依頼が多い状況であった。

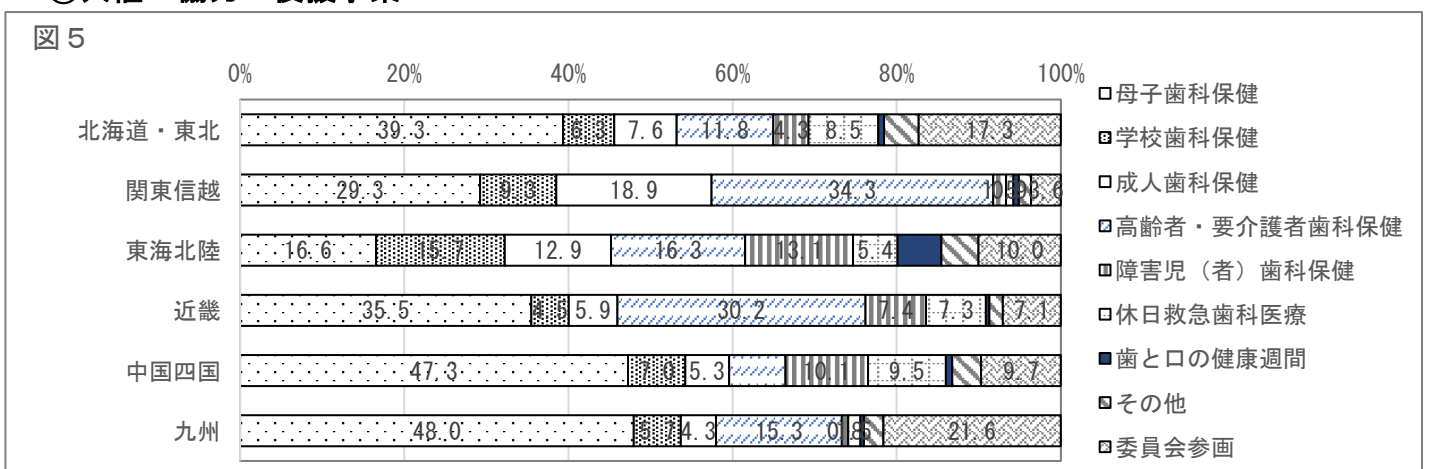
(4) 実施主体別の事業項目別割合

① 受託事業



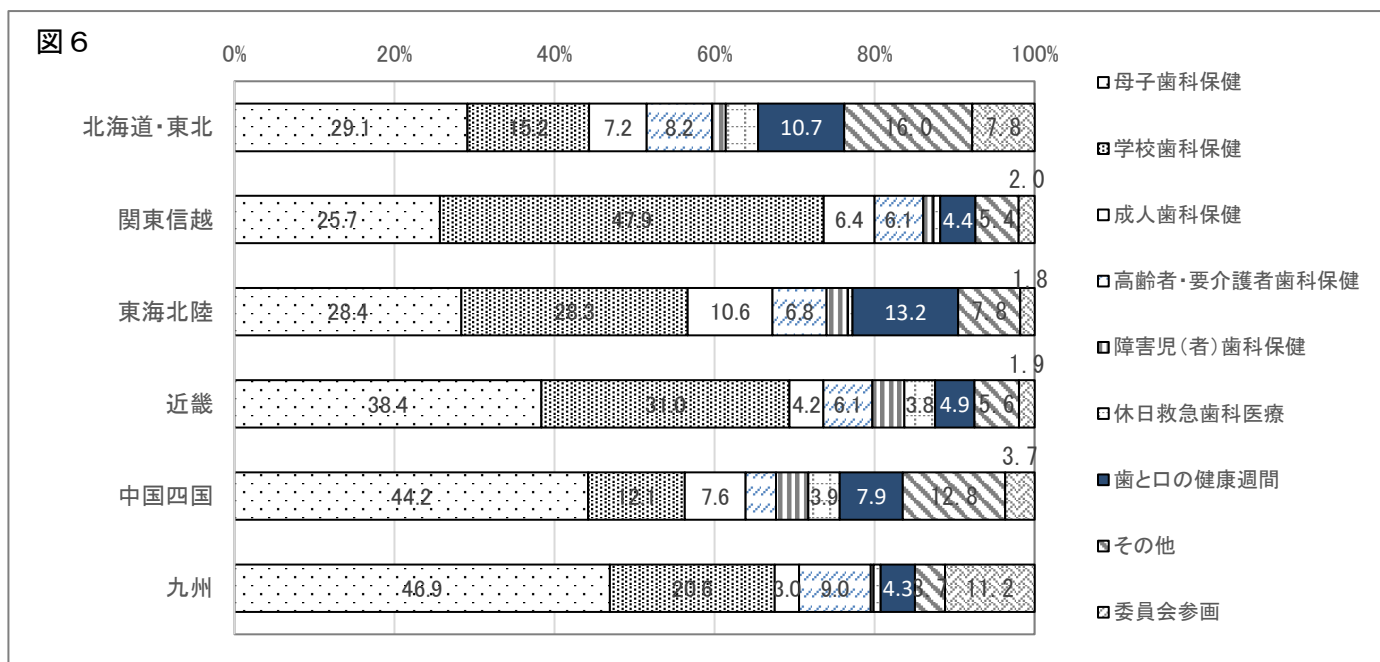
- ・多くのブロックでは母子歯科保健の受託事業が最も多いが、九州は高齢者・要介護者が最も多い状況であった。

② 共催・協力・後援事業



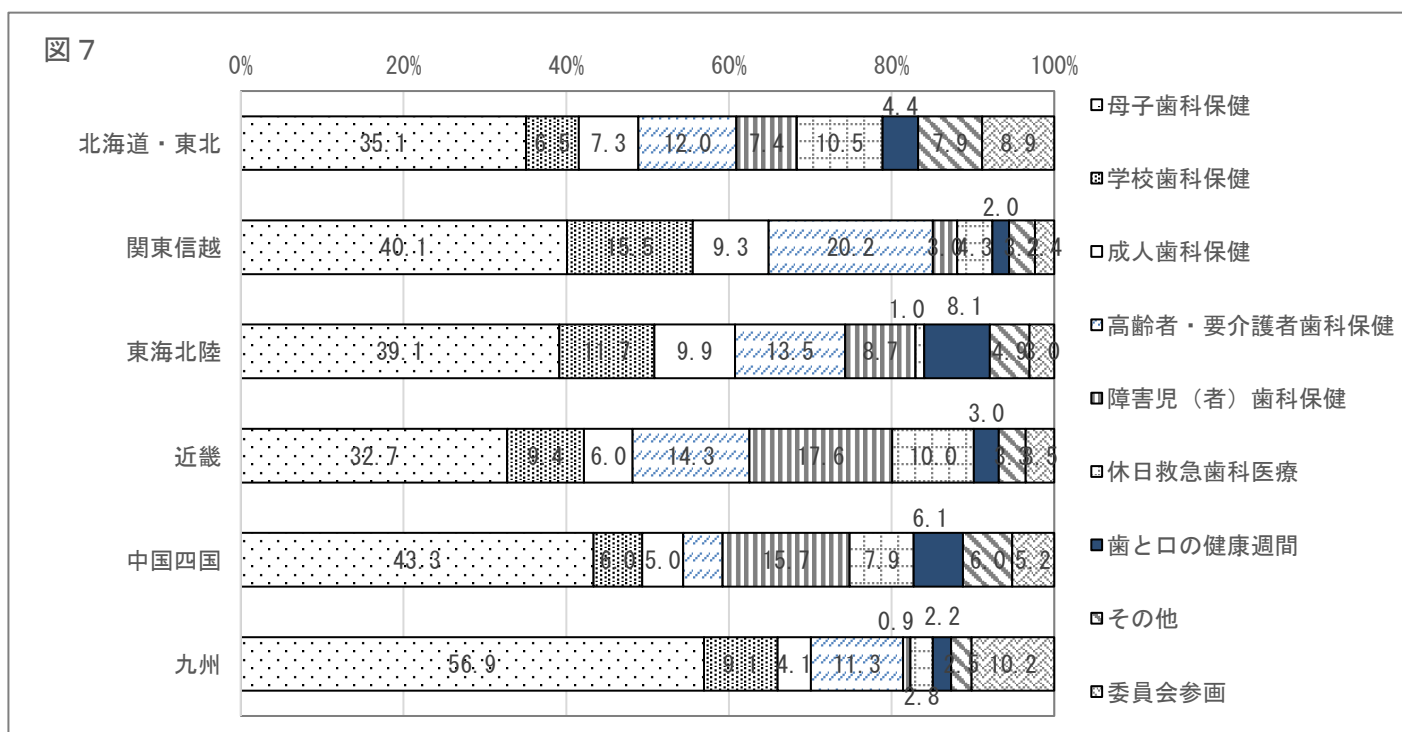
- ・関東信越は、高齢者・要介護者歯科保健が最も多く、関東信越以外のブロックでは母子歯科保健が最も多い。

2 実施延人数について(事業項目別割合)



- ・ 関東信越を除くブロックでは、母子歯科保健が最も多い。
- ・ 関東信越では学校歯科保健が最も多く、学校歯科保健の事業区分「⑦その他」である学校歯科健診記録等の多くを受託し実施していた県があった。

3 参加歯科衛生士数について(事業項目別割合)



- ・ 歯科衛生士が従事している事業項目は、どのブロックも母子歯科保健が最も多く、特に、九州は約6割を占めていた。
- ・ 関東信越は高齢者・要介護者歯科保健に従事する歯科衛生士が多く、近畿は障害児(者)歯科保健に従事する歯科衛生士が他のブロックより多い状況であった。